

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 7 教育研究等環境						
(1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。						
<各部署・関係委員会評定>	0	<input checked="" type="checkbox"/>	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	<input checked="" type="checkbox"/>	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 学生の学習および教員による教育研究環境整備に関する方針の明確化						
2. 校地・校舎・施設・設備に係る大学の計画						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 達成度評価						
① 学生の学修，教員の教育研究の環境整備に関わる方針を，当該大学，学部・研究科の理念・目的を踏まえて定めているか。また，その方針を教職員で共有しているか。						
【行動計画】						
・学生の学修，教員の教育研究の環境に関わる基本方針の策定を行う。						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
・設置基準や関係法令を満たした校地・校舎等を有しており，適切な教室等教育施設・教育設備・研究室等研究施設・設備等が整備されている。また，教員に係わる演習等教育関係経費・研究関係経費の支援も行っている。しかし，教育研究環境整備に関する方針の策定はできていない。						
3.【長所・特色】						
特にない。						
4.【課題】						
・教育研究環境整備に関する方針を策定する必要があるが，策定に際しては，関係部門と連携を密にして策定する必要がある。						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
・平成 29 年度前期までに教育研究環境整備に関する方針を策定し，教職員で共有し，学外に向けて大学のホームページに公開する。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し，現物を添付すること						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<所見>
教育研究環境整備に関する方針の策定が出来ていないので，早急に定めることを期待する。

※各項目について，2～3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 7 教育研究等環境						
(2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。						
<各部署・関係委員会評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 校地・校舎等の整備状況とキャンパス・アメニティの形成						
2. 校地・校舎・施設・設備の維持・管理, 安全・衛生の確保						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤評価						
① 校地および校舎面積が, 法令上の基準(大学設置基準等)を満たしており, かつ運動場等の必要な施設・設備を整備していること。						
2. 達成度評価						
② 方針に沿って, 施設・設備, 機器・備品を整備し, 管理体制や衛生・安全を確保する体制を整えているか。(評価するにあたり, 当該大学の説明・証明から, 下記のことが明らかであることに留意する) ア. バリアフリーに対する等, 施設・設備の安全性, 利便性を向上させるための取り組み。						
【行動計画】						
・法令上の基準(大学設置基準等)の校地および校舎面積を満たしていくとともに, 校舎の老朽化については, 老朽化の進行を見極めながら大学総務課と本部施設部で連携を取りながら対応していく。						
・バリアフリー等施設・設備の安全性, 利便性の向上のために, 大学総務課と本部施設部で連携し取り組んで行き, 当面, 課題となっている車椅子利用学生の学内移動に係る課題については, 予算化を行い対応していく。						
2.【達成状況報告(平成 28 年度末現在)】						
・校地および校舎面積については, 法令上の基準(大学設置基準等)を満たしており, キャンパス・アメニティについては, 快適なキャンパス・アメニティに努め, バリアフリー化を行いキャンパス整備に努めた。						
3.【長所・特色】						
特にない。						
4.【課題】						
・校舎の老朽化が全体的に進んでおり対応する必要がある。また, 車椅子利用学生の学内移動に係る施設整備については, 平成 28 年度予算化ができなかったため, 平成 29 年度予算化に向けて大学総務課と本部施設部で検討を続けていく必要がある。						
5.【全体のまとめ(将来を視野に次年度に向けた発展方策)】						
・平成 29 年度も大学総務課と本部施設部で連携を取りながら対応していくが, 特に校舎の老朽化については, 老朽化の進行を見極めながら対応していく。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し, 現物を添付すること						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

校舎の老朽化及び車椅子利用学生の学内移動に係る施設整備については、予算化を含め、次年度に向けて対応されることを期待する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：附属図書館

記入責任者： 濱田 照美

基準 7 教育研究等環境						
(3) 図書館・学術情報サービスは十分に機能しているか。						
<各部署・関係委員会評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 図書・学術雑誌，電子情報等の整備状況とその適切性						
2. 図書館の規模，司書の資格等の専門能力を有する職員の配置，開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境						
3. 国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤評価事項						
②大学，学部・研究科等において十分な教育研究活動を行うために，図書館において必要な質・量の図書，学術雑誌，電子媒体等を備えていること。						
③図書館，学術情報サービスを支障なく提供するために，専門的な知識を有する専任職員を配置していること。						
2. 達成度評価事項						
②イ. 国立情報学研究所のGeNiiや他の図書館とのネットワークを整備する等の，学術情報アクセスの充実。						
ウ. 座席数・開館時間など，学生の修学に配慮した図書館利用環境の整備。						
【行動計画】						
・電子ジャーナルや電子ブック購入のための予算及び運用・管理のルール作成。						
・利用状況や機器の老朽化に対応し，利用者のニーズに応えた閲覧室のレイアウト変更を検討する。						
・開館時間の延長について検討する。						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
・電子ブックは図書費として扱うことを確認し 81 点を購入した。						
・レイアウト変更に関しては図書館内では検討し新規事業として提案したが，予算との関係もあり次年度改めて本部施設部や大学総務課と内容の再検討をしていくことになった。						
・開館時間の延長については利用者アンケート(2016/11～12)の結果，84%の利用者は今のままで良いと回答している。変更希望(13%)では平日の 21 時までの延長を望む声が一番多かったが，実際の利用状況を見ながら今後検討していかなければならない(資料 7-3-1)。						
3.【長所・特色】						
・図書・楽譜(644 千冊)，視聴覚資料(約 38 千冊)，雑誌(約 5,800 種)を備え，座席数も 530 席以上を確保している図書館であり，職員及び委託スタッフは全員司書の有資格者である。NACSIS-CAT/ILL に継続参加している。						
4.【課題】						
・電子ブックの選定や利用促進について工夫していく必要がある。						
・施設設備の変更については予算の確保が難しいと思われる。						
・開館時間の延長については，変更する場合は委託業者との契約について再検討する必要がある。						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
・利用者へのガイダンスに電子部ブックの利用や広報を組み込む。						
・レイアウト変更については，平成 30 年度内には実施できるように関係部局と調整し案をまとめ予算化を図る。						

6.【根拠資料】 資料名を明記し，現物を添付すること

資料 7-3-1 「2016 年鹿児島国際大学附属図書館利用者アンケート集計報告書」

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

電子資料の活用、システムや施設設備の更新など、時代のニーズに合わせた計画的な予算編成と図書館運営をされることを期待する。

※各項目について，2～3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 7 教育研究等環境						
(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 教育課程の特徴, 学生数, 教育方法等に応じた施設・設備の整備						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤評価						
① 専任教員に対して, 研究活動に必要な研究費を支給していること。						
【行動計画】						
【平成 29 年度】						
・施設・整備計画に基づき教育課程の特徴, 学生数, 教育方法等に応じた施設・設備の整備を行っていく。						
2. 【達成状況報告 (平成 28 年度末現在)】						
・専任教員に対しての研究費の支給については適正に行われている。						
3. 【長所・特色】						
特にない。						
4. 【課題】						
特にない。						
5. 【全体のまとめ (将来を視野に次年度に向けた発展方策)】						
・専任教員に対しての研究費の支給については適正に行っていく必要がある。						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し, 現物を添付すること						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<所見>
専任教員に対する研究費は適正に支給されていると評価する。

※各項目について, 2~3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：教務部教務課

記入責任者：星田次子

基準 7 教育研究等環境						
(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
2. ティーチング・アシスタント (TA)・リサーチ・アシスタント (RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備						
【評価に際し留意すべき事項】						
2. 達成度評価						
オ ティーチング・アシスタント (TA), リサーチ・アシスタント (RA) 等の人的支援						
【行動計画】						
TA の配置を希望する授業科目について, 規程及びガイドラインを基に適切に配置する。						
2.【達成状況報告 (平成 28 年度末現在)】						
TA は, 「鹿児島国際大学大学院ティーチング・アシスタントに関する規程」並びに「ティーチング・アシスタントに関するガイドライン」を基に, 授業科目担当教員が配置を希望する授業科目 (学部科目, 大学院博士前期課程科目) について, 適切に配置し, 人的支援を行った (資料 7-4-1, 7-4-2, 7-4-3)。						
RA については, 現在, 本学は研究プロジェクト等を行っておらず, 研究補助者を必要としていないため, 現在のところ必要ないものと考えている。						
3.【長所・特色】						
特になし。						
4.【課題】						
継続的に TA 活用の適切性を検証する。						
5.【全体のまとめ (将来を視野に次年度に向けた発展方策)】						
TA の配置を希望する授業科目について, 規程及びガイドラインを基に適切に配置し, 人的支援を行っているが, 適切性の検証を継続的に行う必要がある。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し, 現物を添付すること						
1. 資料 7-4-1 鹿児島国際大学大学院ティーチング・アシスタントに関する規程						
2. 資料 7-4-2 ティーチング・アシスタントに関するガイドライン						
3. 資料 7-4-3 TA 配置表						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<所見>
関連する規程並びにガイドラインに基づき, TA を適切に配置し, 人的支援を行っていることを評価する。

※各項目について, 2~3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 7 教育研究等環						
(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。						
< 各部署・関係委員会評定 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
< 自己点検・評価実施部会等評定 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
3. 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤評価						
① 専任教員のための研究室を整備していること。						
2. 達成度評価						
② 研究専念時間の設定等，教員の研究機会の保障						
【行動計画】						
【平成 28 年度】						
・ 出版助成制度について，助成金額（1 件あたり 150 万円を上限）と，助成件数（学位論文出版助成は 2 件以内・論文出版助成は 6 件以内）について，他大学の状況と本学の財務状況を踏まえ，見直しが必要かどうか検討する。						
・ 定年退職年齢が 65 歳である状況で，在宅研修の申請について，開始する年度の 4 月 1 日時点で 64 歳以下としている現行規程を見直す必要がないか検討する必要がある。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
・ 専任教員については，①個人研究費は，年間 350 千円となっており，研究実績を基に，研究実績加算分（100 千円）を配分、②研究室（個室）を与え、③研究機会の確保等については，学外研修制度を設け、④出版物に対して，助成（出版助成金）した。						
しかし、出版助成制度及び在宅研修制度について見直しが必要か検討できていない。						
3. 【長所・特色】						
特にない。						
4. 【課題】						
・ 専任教員の研究活動を支援する体制等は整っており，特に課題はないものとするが、出版助成制度及び在宅研修制度について見直しが必要か検討できていないため、検討する必要がある。						
5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
・ 平成 29 年度後期中に出版助成制度について見直しが必要か検討を行う。						
・ 平成 29 年度後期中に在宅研修制度について見直しが必要か検討を行う。						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し，現物を添付すること						
・ 学校法人津曲学園就業規則						
・ 津曲学園鹿児島国際大学学外研修規程						
・ 鹿児島国際大学出版助成に関する規程						
・ 平成 28 年度研究室等使用状況						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

出版助成制度及び在宅研修制度について、見直しが必要か検討できていないため、検討されることを期待する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：情報処理委員会

記入責任者：堀之内 英人

基準 7 教育研究等環境						
(4) 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
3. 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤的評価 専任教員のための研究室を整備していること。						
2. 達成度評価 研究専念時間の設定等，教員の研究機会の保障						
【行動計画】						
5 月下旬～6 月上旬 研究室へのパソコン及びプリンタの設置 設置場所：8 研究室（パソコン 8 台，プリンタ 5 台）						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
6 月上旬に 8 名の教員の研究室へ，パソコン 8 台とプリンタ 5 台を設置した。(資料 7-4-1)						
3.【長所・特色】						
教員の研究室は，全室個室が与えられ，教育及び研究を行うためのパソコンとプリンタを設置している。 また，全ての研究室からインターネット接続（有線 LAN）も可能である。						
4.【課題】						
特になし。						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
ICT 機器を活用した教育及び研究を快適に行う上で，パソコンとプリンタやインターネット接続は必須であるため，経年劣化のあるパソコンとプリンタは定期的に交換していく。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し，現物を添付すること						
1. 資料 7-4-1 2016(平成 28)年度研究室パソコン及びプリンタ入替え一覧						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<所見> 全教員に個室の研究室が与えられ，また，研究室は教育及び研究を行うためのパソコンとプリンタを設置し，インターネット接続も可能な状態など，整備されていることを評価する。

※各項目について，2～3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：研究教育開発センター会議

記入責任者：大里 和博

基準 7 教育研究等環境						
(5) 研究倫理を遵守するために必要な措置はとっているか。						
< 各部局・関係委員会評定 >	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4	※数値を○で囲んでください
< 自己点検・評価実施部会等評定 >	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
<ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理に関する学内規程の整備状況 ・研究倫理に関する学内審査機関の設置・運営の適切性 						
【評価に際し留意すべき事項】						
〔達成度評価〕						
カ. 研究倫理に関する規程の整備，研修会の開催，学内審査機関の設置等，研究倫理を浸透させるための措置						
【行動計画】						
研究活動における不正行為等を防ぐため研究倫理教育とコンプライアンス教育を行い，研究倫理に関する意識を向上させる。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
<p>「鹿児島国際大学における研究活動に係る行動規範」を制定し，「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成 26 年 8 月 26 日文科科学大臣決定）」並びに「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）（文科科学省 平成 26 年 2 月 18 日改正）」に基づき規程等を整備している。</p> <p>新規採用教員，科研費申請者，関係部局事務職員及び物品購入取引事業者等に対して研究倫理教育とコンプライアンス教育を実施し，研究倫理に関する意識を向上させている。</p> <p>また，Web 上でも「研究活動に関する取り組み」について公表しており，研究活動に関わる不正行為の防止と公的研究費の適正な管理・監査活動の推進に取り組んでいる。</p> <p>そのほか，研究倫理委員会を設置して，研究者や大学院生を対象にした研究倫理の教育の実施や学内監査機関の体制を構築している（資料 7-5-1）。</p>						
3. 【長所・特色】						
文部科学省から出された「ガイドライン」等を踏まえて，全て関係規程等を策定・整備している（資料 7-5-1）。						
4. 【課題】						
実施部会と各部局・関係委員会を中心とする点検・評価活動を実施する必要がある。						
5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
適切性の検証を各関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで，実施部会において，継続的に実施する必要がある。また，文部科学省等の動向を注意し，適切に対応していく。						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し，現物を添付すること						
資料 7-5-1 「研究活動に関する取り組み」ホームページで公表						
http://www.iuk.ac.jp/gaiyou/manner/index.html						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

研究活動における不正行為等を防ぐため研究倫理教育とコンプライアンス教育を行い、研究倫理に関する意識を向上させる取組を行っていることを評価する。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 7 教育研究等環境						
基準 7 全体に関わること						
< 各部局・関係委員会評定 >	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
< 自己点検・評価実施部会等評定 >	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 達成度評価						
③ 教育研究等環境の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。 また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。						
【行動計画】						
【平成 29 年度】						
・実施部会と各部局・委員会等を中心とする点検・評価活動を実施する。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
教育研究等環境の適切性については、各課や関連委員会が検証主体として、それぞれ現状の検証と改善方策を検討し対応しているが、各課や関連委員会の検証を主体となって集約する組織がなく、責任、権限、手続が明確化されていない。						
3. 【長所・特色】						
特にない。						
4. 【課題】						
・鹿児島国際大学自己点検・評価規程第 4 条に基づき、実施部会である総務部会を検証プロセスを適切に機能させ改善につなげていく責任主体・組織と位置付け、検証を行っていく必要があるが、実際、そうなっていないのが課題である。						
5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
・平成 29 年度末までに関係部局・委員会等が点検・評価活動を行い、総務部会が検証する。また、点検・評価結果に基づく改善・向上を行う。						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

教育研究等環境の自己点検・評価が行われ、適切性の検証を継続的に実施することを期待する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 9 管理運営・財務 (1) 管理運営						
(1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中・長期的な大学運営方針の策定と大学構成員への周知 2. 意思決定プロセスの明確化 3. 教学組織（大学）と法人組織（理事会等）の権限と責任の明確化 4. 教授会の権限と責任の明確化 						
【評価に際し留意すべき事項】						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 達成度評価 <ol style="list-style-type: none"> ① 意思決定プロセスや、権限・責任（教学組織と法人組織との関係性を含む）、中長期の大学運営のあり方を明確にした大学運営方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 ② 方針に基づき、適切な規程を整備し、規程に則った大学運営を行っているか。 						
【行動計画】						
<ul style="list-style-type: none"> ・中長期の大学運営の在り方を明確にした管理運営方針を作成する。 						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
<ul style="list-style-type: none"> ・本学の教育理念・目的を実現するため、研究科会議、教授会等において審議し、最終的には、大学評議会の審議を経て、学長が決定し、理事会の承認を必要とするものについては理事会に諮り決定している。 ・教学上の最高責任者である学長は、本法人の理事および評議員で、理事会および評議員会の重要なメンバーであり、本学の経営の責任を担っており、また、大学は学則等に、理事会は津曲学園寄附行為に権限と責任を定めており、規則に則った管理運営を行っているが、管理運営方針は策定できていない。 						
3.【長所・特色】						
特にない。						
4.【課題】						
<ul style="list-style-type: none"> ・管理運営方針を策定できていないため、策定する必要がある。 						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度前期中に管理運営方針を策定し、教職員に周知するとともに、学外に向けても大学のホームページで公開する。 ・実施部会と各部局・関係委員会を中心とする点検・評価活動を実施する。 						

6.【根拠資料】 資料名を明記し，現物を添付すること

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

管理運営方針を策定できていないため、早急に策定することを期待する。

※各項目について，2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 9 管理運営・財務 (1) 管理運営						
(2) 明文化された規程に基づいて大学運営を行っているか。						
< 各部局・関係委員会評定 >	0	<input checked="" type="radio"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
< 自己点検・評価実施部会等評定 >	0	<input checked="" type="radio"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 関係法令に基づく大学運営に関する学内諸規定の整備とその適切な運用						
2. 学長、学部長・研究科長および理事（学務担当）等の権限と責任の明確化						
3. 学長選考および学部長・研究科長等の選考方法の適切性						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤評価						
① 学長をはじめとする所要の職を置き、また教授会等の組織を設け、これらの権限等を明確にしていること。						
【行動計画】						
1. 管理運営方針の策定を行う。						
2. 学長、学部長及び研究科長の権限と責任について、学則に規定するか、または、役職者規程等を策定して明確にする。						
3. 学部長の選考方法について、福祉社会学部と国際文化学部で学部長選挙に関する細則を新たに制定する。						
4. 学部長と研究科長の選出方法及び決定について違いがあり、見直す必要があるか検討する。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
1. 全学的に重要な事項を審議する大学評議会で諸規程について審議を行い、学長の承認を得て諸規程を整備し管理運営を行っており、また、学長をはじめとする所要の職を置き、大学評議会、教授会等の組織を設けて、学則、大学院学則、教授会規程、研究科会議規程、大学評議会規則等において審議内容を明確に規定しているが、管理運営方針は策定できていない。						
2. 役職者の権限等については、学長補佐、副学長および学科長については、規程において職務、選考等明確に規定しており、また、学長の選考方法は、学校法人津曲学園所属長の任免及び任期に関する規程、学部長及び研究科長等は、鹿児島国際大学学部長選挙規程、鹿児島国際大学大学院研究科長選出規程に定められており、選考は適切に行われているが、学長、学部長及び研究科長の権限と責任については明確にできていない。						
3. 福祉社会学部と国際文化学部の学部長選挙に関する細則は策定できていない。						
4. 学部長と研究科長の選出方法及び決定について、見直す必要があるか検討できていない。						
3. 【長所・特色】						
特になし。						

4. 【課題】
<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理運営方針は策定できていないため、策定する必要がある。 2. 学長、学部長及び研究科長の権限と責任について、明確にできていないため、明確にする必要がある。 3. 福祉社会学部と国際文化学部の学部長選挙に関する細則は策定できていないため、策定する必要がある。 4. 学部長と研究科長の選出方法及び決定について、見直す必要があるか検討できていないため、検討する必要がある。
5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】
<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成 29 年度前期中に大学運営方針を策定する。 2. 平成 29 年度前期中に学長、学部長及び研究科長の権限と責任を明確にするため、学則改正あるいは役職者規程制定を行う。 3. 平成 29 年度前期中に福祉社会学部と国際文化学部の学部長選挙に関する細則を策定する。 4. 平成 29 年度前期中に学部長と研究科長の選出方法及び決定について、見直す必要があるか検討する。
6. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<p><所見></p> <p>①管理運営方針、②学長、学部長及び研究科長の権限と責任の明確化（学則改正か役職者規程）、③福祉社会学部と国際文化学部の学部長選挙に関する細則について策定できていないため、早急に策定することを期待する。</p> <p>また、学部長と研究科長の選出方法及び決定について、見直す必要があるか検討できていないため、検討することを期待する。</p>

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 9 管理運営・財務 (1) 管理運営						
(3) 大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか。						
< 各部局・関係委員会評定 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
< 自己点検・評価実施部会等評定 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 事務組織の構成と人員配置の適切性 2. 事務機能の改善・業務内容の多様化への対応策 3. 職員の採用・昇格等に関する諸規程の整備とその適切な運用						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤評価 ① 法人・大学の運営に関する業務，教育研究活動の支援，その他大学運営に必要な事務等を行うための事務組織を設けていること。また，必要な事務職員を配置していること。						
【行動計画】						
1. 専任職員（期限付き含む）と非正規職員の適正な人員配置については，法人本部と連携して検討する。 3. 学園全体としての職員の採用・昇格等に関する方針や諸規程について，法人本部と連携して検討を行っていく。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
1. 事務組織は 2 部・3 センター・地域総合研究所・図書館からなる 7 つの組織体制となっており，鹿児島国際大学事務組織規則に基づき，大学業務を推進・支援できるように，専任職員 69 人，期限付職員 9 人，臨時職員 8 人，計 86 人を適切に配置しているが，専任職員（期限付き含む）と非正規職員の適正な人員配置については，法人本部と連携して検討途中である。 2. 平成 26 年度までは 3 部・3 室・3 センター・大学院事務室・図書館・地域総合研究所の 12 の所属がそれぞれ独立した業務を分担しており，相互に関連する業務について，相互の補完・連携・協力が図りにくい体制となっていたが，平成 27 年 4 月からは 2 部・3 センター・地域総合研究所・図書館からなる 7 つの組織体制に再編し，相互の補完・連携・協力がより図られ易い体制とした。 3. 職員の採用・昇格等については，事務局全体の状況及び職員個人の資質，希望等を総合的に勘案し，事務局が異動案を学長に提案し，また，法人本部に説明を行い，法人本部が理事長の承認を得て行っているが，学園全体としての職員の採用・昇格等に関する方針や諸規程については，法人本部と連携して検討を行っていく。 ただし，学園全体としての職員の採用・昇格等に関する方針や諸規程が整備されていないため，整備する必要がある。						
3. 【長所・特色】						
特にない。						

4.【課題】
・学園全体としての職員の採用・昇格等に関する方針や諸規程について、法人本部と連携して検討を行っていく必要があるが、現在まだ本格的に検討ができていない。
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】
・法人本部と連携して行った上記の検討結果に沿って人員配置を行っていく。 ・実施部会と各部局・関係委員会を中心とする点検・評価活動を実施する。
6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<所見> 学園全体としての職員の採用・昇格等に関する方針や諸規程について、法人本部とまだ検討がなされていないため、検討することを期待する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 9 管理運営・財務 (1) 管理運営						
(4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか。						
< 各部局・関係委員会評定 >	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
< 自己点検・評価実施部会等評定 >	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 人事考課に基づく適正な業務評価と処遇改善						
2. スタッフ・ディベロップメント (SD) の実施状況と有効性						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 達成度評価						
① 事務職員の資質向上に向けた研修等の取り組みを行って改善につなげているか。						
② 管理運営に関する検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。						
【行動計画】						
1. 学園本部では策定していないため、学園全体としての人事考課制度について、法人本部と連携して検討を行っていく。						
2. SD (グローバル化対応含む) に関する実施方針・計画を全学的に策定する。						
2. 【達成状況報告 (平成 28 年度末現在)】						
1. 自己申告の提出に伴う目標管理シートを活用して、職員全員が自己の業務実績について自己評価を行った。ただし、人事考課に基づく業務評価と処遇改善まではできていないため、学園全体としての人事考課制度について、法人本部と連携して検討を行う必要があったが、検討できていない。						
2. 学園本部が主体となって、書記から部長職までを対象にした階層別研修会、新規採用職員研修会及びコンプライアンス・ハラスメント研修会を開催した。また、大学では、業務の簡素化及び業務改善の効率化を図るとともに、事務局職員が、一人ひとりの問題意識、課題解決能力及び企画力を高めるための取り組みとして、事務局職員提案制度を実施した。						
ただし、SD (グローバル化対応含む) に関する実施方針・計画は策定できていない。						
3. 【長所・特色】						
特にない。						
4. 【課題】						
・ 学園全体としての人事考課制度について、法人本部と検討ができていないため、検討する必要がある。						
・ SD (グローバル化対応含む) に関する実施方針・計画が策定できていないため、策定する必要がある。						

5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】

- ・平成 29 年度中に学園全体としての人事考課制度について，法人本部と検討を行う。
- ・平成 29 年度中に SD（グローバル化対応含む）に関する実施方針・計画の作成を行う。

6.【根拠資料】 資料名を明記し，現物を添付すること

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

SD（グローバル化対応含む）に関する実施方針・計画が策定できていないため、早急に策定することを期待する。

※各項目について，2～3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 9 管理運営・財務 (1) 管理運営						
< 各部局・関係委員会評定 >	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
< 自己点検・評価実施部会等評定 >	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 達成度評価						
① 管理運営に関する検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。						
【行動計画】						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
<p>私立学校法第 37 条第 3 項及び学園監事監査規程に基づき、11 月に監事と内部監査室が監査計画により、業務監査（所属長から事業計画進捗状況の報告と業務が適正に執行されているかを検証）と、会計監査（経理規程に基づいて執行されているかを検証）を実施した。</p>						
3. 【長所・特色】						
特にない。						
4. 【課題】						
<p>管理運営に関する適切な検証及び改善はなされているが、検証の実施が本部主導となっているため、今後は大学と法人が連携して検証する必要がある。</p>						
5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
<ul style="list-style-type: none"> ・実施部会と各部局・関係委員会を中心とする点検・評価活動を実施する。 ・管理運営に関する適切な検証については、大学と法人が連携して検証する。 						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						

< 自己点検・評価実施部会等による適切性の検証 >
< 所見 >
<p>管理運営に関する適切な検証及び改善はなされているが、検証の実施が本部主導となっているため、今後は大学と法人が連携して検証することを期待する。</p>

※各項目について、2～3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準9 管理・財務 (2) 財務						
(1) 教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 中・長期的な財政計画の立案						
【評価に際し留意すべき事項】						
【行動計画】						
1. 大学中期ビジョンにおける中期財政計画を策定する。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
1. 津曲学園中期ビジョンにおいて大学の中期財政計画の中で、経常収支差額・比率について策定した。						
3. 【長所・特色】						
特にない。						
4. 【課題】						
1. 津曲学園中期ビジョンにおいて大学の中期財政計画の中で、経常収支差額・比率について策定したが、具体的な財政計画の策定に至っていない。						
5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
1. 平成 29 年度中に中長期財政計画を策定し、実行する。						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<所見>
津曲学園中期ビジョンにおいて大学の中期財政計画の中で、経常収支差額・比率について策定しているが、具体的な財政計画の策定ができていないため、早急に策定することを期待する。

※各項目について、2～3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：総務課・研究教育開発センター会議

記入責任者：津 曲 新 一，大 里 和 博

基準 9 管理運営・財務 (2) 財務						
(1) 教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。						
< 各部局・関係委員会評定 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
< 自己点検・評価実施部会等評定 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
2. 科学研究費補助金，受託研究費等の外部資金の受け入れ状況						
【評価に際し留意すべき事項】						
【行動計画】						
① 外部競争的資金の申請原則義務化としているため，科学研究費申請件数を向上させる。						
② 受託研究費の選定基準を検討する。						
③ 経常費補助金の獲得に向けた取り組みを検討する。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
① 外部競争的資金の申請原則義務化に取り組んでいるものの，申請件数が向上していない。						
② 受託研究費の選定基準の必要性は認識しているが，検討はできていない。						
③ 経常費補助金の獲得に向けた取り組みについては，事務局全体として検討途中である。						
3. 【長所・特色】						
① 科学研究費助成事業等への申請者増加を目指し，競争的資金等の採択があった研究者へのインセンティブとして，「科学研究費等採択助成金」を設定している（資料 9-2-1①ア）。						
また，競争的資金等の間接経費における導入主旨でもある「研究機関間の競争を促し，研究の質を高める」といった観点から，間接経費が措置された競争的資金等へ申請し，不採択となった研究者へ「研究支援費」を導入している（資料 9-2-1①イ）。						
4. 【課題】						
① 科学研究費補助金の採択増加に向けた取り組みについて周知を図り，申請件数の向上を目指す。						
② 受託研究費の選定基準を検討できていない。						
③ 経常費補助金の獲得に向けた取り組みを検討途中であり，具体的な方策までに至っていない。						
5. 【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
適切性の検証を実施部会と各関係委員会において自己点検・評価を行ったうえで，実施部会において，継続的に実施する必要がある。						
6. 【根拠資料】 資料名を明記し，現物を添付すること						
資料 9-2-1①ア「鹿児島国際大学における科学研究費等採択助成金に係る基本方針」（平成 27 年 8 月 4 日 制定）						
資料 9-2-1①イ「競争的資金の申請採択にかかる研究支援について－間接経費が措置された競争的資金の採択者・不採択者対象－」（平成 27 年 7 月 22 日 大学評議会資料）						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

科学研究費補助金の採択増加に向けた取り組みについて周知を図り、申請件数の向上することを期待する。

基準別評価項目点検総括表 (④受託研究費)

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：地域総合研究所・研究所会議

記入責任者：小林 和代

基準 9 管理運営・財務 (2) 財務						
(1) 教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
2. 科学研究費補助金, 受託研究費等の外部資金の受け入れ状況						
【評価に際し留意すべき事項】						
なし						
【行動計画】						
受託研究費の選定基準を検討する。						
2.【達成状況報告 (平成 28 年度末現在)】						
具体的な選定基準を検討するに至らなかった。						
3.【長所・特色】						
(具体的な選定基準を検討するに至らなかった。)						
4.【課題】						
受託研究費 (間接経費を含む) の選定基準を検討する。						
5.【全体のまとめ (将来を視野に次年度に向けた発展方策)】						
受託研究費 (間接経費を含む) について具体的な選定基準を検討できなかった。平成 29 年度は, 本学研究者の研究と事業内容とのマッチングを行い, 一定水準以上の事業を受託していく。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し, 現物を添付すること						
研究所会議議事録						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<所見>
受託研究費 (間接経費を含む) について具体的な選定基準を検討できていないため, 検討することを期待する。

※各項目について, 2~3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 9 管理運営・財務 (2) 財務						
(1) 教育研究を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか。						
<各部局・関係委員会評価>	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評価>	0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
3. 消費収支計算書関係比率および貸借対照表関係比率の適切性						
【評価に際し留意すべき事項】						
【行動計画】						
2.【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
・現状は負債は少なく貸借対照表上の問題は比較的少ない。						
3.【長所・特色】						
特にない。						
4.【課題】						
・大学中長期ビジョンに基づく収支上の目標数値及び目標数値から導く事業活動収支計算書（旧：消費収支計算書）上の適切な財務関係比率を設定できていないため、設定する必要がある。						
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】						
・大学中長期ビジョンに基づく収支上の目標数値の設定及び目標数値から導く事業活動収支計算書（旧：消費収支計算書）上の適切な財務関係比率の設定について、本部経理部と連携して設定を行う。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>	
<所見>	
大学中長期ビジョンに基づく収支上の目標数値及び目標数値から導く事業活動収支計算書（旧：消費収支計算書）上の適切な財務関係比率を設定できていないため、設定することを期待する。	

※各項目について、2～3 行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部局・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 9 管理運営・財務 (2) 財務						
(2) 予算編成および予算執行を適切に行っているか。						
<各部局・関係委員会評定>	0	1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	3	4	※数値を○で囲んでください
<自己点検・評価実施部会等評定>	0	1	2	<input checked="" type="checkbox"/> 3	4	※数値を○で囲んでください
1.【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
1. 予算編成の適切性と執行ルールの明確性, 決算の内部監査						
2. 予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 基盤評価						
① 【大学評価分科会評価事項】財務監査を, 適切な体制, 手続を整えて行っているといえること。						
② (私立大学) 監事による監査報告書を整備し, 私立学校法第 37 条第 3 項に定める学校法人の業務および財産の状況を適切に示しているといえること。						
【行動計画】						
【平成 29 年度】						
・これまでのやり方を踏襲する。						
・改善に向けたさらなる取組みを検討する。						
2.【達成状況報告(平成 28 年度末現在)】						
監事が私立学校法第 37 条第 3 項に基づき, 学校法人の業務と財産状況を監査し, 監査報告書を整備するとともに, 監査報告書は, 学園ホームページ(情報公開)に掲載した。						
事業計画の実施状況を年度途中に点検するとともに, 年度末には年間の実施状況を総括検証しており, 次年度予算編成においても, 事務局ヒアリングを通して, 当年度の予算執行に伴う効果等について検証を行った。また, 学園本部との予算ヒアリングにおいても, 予算執行に伴う効果等について検証を行った。						
3.【長所・特色】						
特にない。						
4.【課題】						
特にない。						
5.【全体のまとめ(将来を視野に次年度に向けた発展方策)】						
これまでのやり方を踏襲し, 改善に向けたさらなる取組を検討する。						
6.【根拠資料】 資料名を明記し, 現物を添付すること						

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>

<所見>

監事が学校法人の業務と財産状況を監査し, 監査報告書を整備するとともに, 監査報告書は, 学園ホームページ(情報公開)に掲載しており評価する。

また、次年度予算編成においても、事務局ヒアリングを通して、当年度の予算執行に伴う効果等について検証を行い、また、学園本部との予算ヒアリングにおいても、予算執行に伴う効果等について検証を行っていることを評価する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。

基準別評価項目点検総括表

(平成 28 年度末時点)

各部署・関係委員会名：総務課

記入責任者：津曲新一

基準 9 管理運営・財務 (2) 財務						
< 各部署・関係委員会評価 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
< 自己点検・評価実施部会等評価 >	0	1	2	3	4	※数値を○で囲んでください
1. 【自己点検・評価する際に留意した点】						
【評価の視点】						
【評価に際し留意すべき事項】						
1. 達成度評価						
① 教育研究目的・目標を具体的に実現する上で必要な財政基盤（もしくは配分予算）を確立しているか。						
② 中・長期の教育研究計画に対する中・長期的な財政計画を策定しているか。また、それらの関連性が適切であるか。						
③ 教育研究の十分な遂行と財政確保の両立を図るための仕組みを導入（整備）しているか。						
④ 文部科学省科学研究費補助金，外部資金（寄附金，受託研究費，共同研究費など），資産運用等の状況は，当該大学の財政基盤の充実を図る上で適切であるか。						
⑤ （私立大学）当該大学の財政関係比率に対する自己点検・評価における指標や目標を示しているか。また，実際の各関係比率はそれらの目標等に照らして十分に達成されているか。						
⑥ 予算配分と執行プロセスの明確性・透明性や，監査の方法・プロセス等の適切性について，明確な責任体制のもと，恒常的かつ適切に検証を行って改善につなげているか。						
【行動計画】						
【平成 28 年度】						
① 大学中長期ビジョンを策定する。						
② 教育計画と財政計画を関連付ける計画の策定に取り組む。						
③ 中長期ビジョン策定の中で，教育研究の遂行と財政確保の両立を図る仕組み整備を検討する。						
④ 寄附金規程等を整備して外部資金の獲得に取り組む。						
⑤ 大学中長期ビジョンに基づく収支目標を設定する。						
⑥ 収支目標達成のための事業活動収支計算書（旧：消費収支計算書）関連の主要比率の目標を設定する。						
2. 【達成状況報告（平成 28 年度末現在）】						
① 大学中期ビジョンを策定した。						
② 教育計画と財政計画を関連付ける計画の策定はできていない。						
③ 中長期ビジョン策定の中で，教育研究の遂行と財政確保の両立を図る仕組みの検討はできていない。						
④ 寄附金規程等を整備して外部資金の獲得の取り組みは一部できた。						
⑤ 大学中長期ビジョンに基づく収支目標を設定できていない。						
⑥ 収支目標達成のための事業活動収支計算書（旧：消費収支計算書）関連の主要比率の目標を設定できていない。						

3.【長所・特色】
特にない。
4.【課題】
<ul style="list-style-type: none"> ① 大学中期ビジョンを策定したため、特に課題はない。 ② 教育計画と財政計画を関連付ける計画の策定はできていないため、策定する必要がある。 ③ 中長期ビジョン策定の中で、教育研究の遂行と財政確保の両立を図る仕組みの検討はできていないため、検討する必要がある。 ④ 寄附金規程等を整備して外部資金の獲得の取り組みは一部できており、さらなる獲得策が必要である。 ⑤ 大学中長期ビジョンに基づく収支目標を設定できていないため、設定する必要がある。 ⑥ 収支目標達成のための事業活動収支計算書（旧：消費収支計算書）関連の主要比率の目標を設定できていないため、設定する必要がある。
5.【全体のまとめ（将来を視野に次年度に向けた発展方策）】
<ul style="list-style-type: none"> ① 次年度に向けた新たな発展方策は特にない。（大学中期ビジョン作成のため） ② 教育計画と財政計画を関連付ける計画の策定はできていないため、策定する。 ③ 中長期ビジョン策定の中で、教育研究の遂行と財政確保の両立を図る仕組みの検討はできていないため、検討する。 ④ 寄附金規程等を整備して外部資金の獲得の取り組みは一部できており、さらなる獲得策を検討する。 ⑤ 大学中長期ビジョンに基づく収支目標を設定できていないため、設定する。 ⑥ 収支目標達成のための事業活動収支計算書（旧：消費収支計算書）関連の主要比率の目標を設定できていないため、設定する。
6.【根拠資料】 資料名を明記し、現物を添付すること

<自己点検・評価実施部会等による適切性の検証>
<p><所見></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教育計画と財政計画を関連付ける計画の策定ができていないため、策定することを期待する。 ② 中長期ビジョン策定の中で、教育研究の遂行と財政確保の両立を図る仕組みの検討はできていないため、検討することを期待する。 ③ 大学中長期ビジョンに基づく収支目標を設定できていないため、設定することを期待する。 ④ 収支目標達成のための事業活動収支計算書（旧：消費収支計算書）関連の主要比率の目標を設定できていないため、設定することを期待する。

※各項目について、2～3行を目安に簡潔に記載してください。